第15回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会

日時：令和８年10月15日（木）

18時～19時30分

会場：県庁西庁舎111号会議室

次 第

１　開　会

２　挨　拶

３　会議事項

（１）「第14回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会」まとめ

（２）再編実施基本計画（案）について

（３）フレックス制の学びの仕組み（案）について

（４）再編実施基本計画（案）策定スケジュールについて

４　諸連絡

５　閉　会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第１　県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第 138 条の４第３項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第２　懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

（１）学校像、教育方針等に関すること

（２）校地・施設・設備等に関すること

（３）管理運営等に関すること

（４）教育内容等に関すること

（５）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

（構成員）

第３　懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、ＰＴＡ、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

２　会議に座長を置く。

（開催期間）

第４　会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和２年 10 月 26 日から施行する。

長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

※◎座長 〇新構成員

				（敬称略）
	区分	氏名	所属等	役職等
1	自治体	〇川上　忍	長野市	副市長
2		丸山 陽一	長野市教育委員会	教育長
3	産業界	塚田 まゆり	長野商工会議所	副会頭
4	学識経験者	◎茅野 理恵	信州大学学術研究院教育学系	教授
5		小林 勝彦	長野県専修学校各種学校連合会	顧問
6	地域	〇百瀬 秀樹	長野地域振興局	局長
7		堀江 三定	長野市スポーツ協会	理事長
8		伊藤 羊子	一般財団法人長野県文化振興事業団 芸術文化推進室	室長
9		戸井田 由奈	特定非営利活動法人長野県NPOセンター	コーディネーター
10	同窓会 振興会	西澤　敏	長野東高等学校同窓会	会長
11		〇山口　茂	長野吉田高等学校戸隠分校同窓会	会長
12		鷲澤 幸一	長野高等学校定時制振興会	会長
13		塚田 篤雄	長野商業高等学校定時制振興会	会長
14		岡　正子	長野西高等学校通信制振興会	会長
15	PTA	高橋 桂子	長野東高等学校PTA	会長
16		若麻績 英亮	長野市PTA連合会（小学校）	副会長
17		石坂 晶子	長野市PTA連合会（中学校）	副会長
18	小中学校等 関係者	青木 忠文	長野市小学校長会（長水地区小学校長会）	会長
19		嶋田 勝彦	長野市中学校長会（長水地区中学校長会）	会長
20		丸山 勝己	長野支援学校	校長
21		塩入 孝一	県立高等学校長会定通部会長 （松本筑摩高等学校校長）	会長
22	再編対象校	〇小布施 京汰	長野東高等学校	生徒会長
23		宮尾 悟良		校長
24		西澤 博樹		教諭
25		中井 美希	長野吉田高等学校戸隠分校	生徒会長
26		〇井上 皇雅		生徒代表
27		内藤 信一		校長
28		丸山 淳一		教諭
29		齊藤 琉水那	長野高等学校定時制	生徒会長
30		佐野 浩一郎		校長
31		山本 俊介		教諭
32		奥山 陽生	長野商業高等学校定時制	生徒会長
33		山岸 蓮弥		生徒副会長
34		加藤 泰久		校長
35		丸山 正史		教諭
36		小林 華子	長野西高等学校通信制	生徒会長
37		亀山 虎太郎		生徒副会長
38		三輪 元子		校長
39		檀原 賢裕		教諭

【事務局】		※〇新事務局員
学校名	氏名（役職等）	
長野東高校	(教頭) 山本 丈治　(教諭) 西澤 博樹　柳澤 秀樹　染谷 翔太	
長野吉田高等学校戸隠分校	(教頭) 宮下 由夫　(教諭) 丸山 淳一	
長野高等学校 定時制	(教頭) 小出 一也　(教諭) 山本 俊介	
長野商業高等学校 定時制	(教頭) 塩野入和彦　(教諭) 丸山 正史	
長野西高等学校 通信制	(教頭) 櫻井 啓也　(教諭) 檀原 賢裕	

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会 事務局	柳沢 勝美	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	細萱 裕樹	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	土橋 邦彦	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	松山 直人	高校教育課 高校再編推進室	主事
	駒込清太郎	学びの改革支援課 高校教育指導係	指導主事

第 14 回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

日　時	令和８年６月 18 日（木）18 時～19 時 30 分			
場　所	長野県庁西庁舎 111 号会議室			
出　席 **（敬称略）** **（◎座長）**	丸山陽一、塚田まゆり、◎茅野理恵、小林勝彦、戸井田由奈*、西澤　敏、高橋桂子 若麻績英亮*、石坂晶子、青木忠文、嶋田勝彦、丸山勝己、塩入孝一*、宮下蓮生、宮尾悟良 西澤博樹、中井美希、山口愛有未、内藤信一、丸山淳一、佐野浩一郎、山本俊介、奥山陽生 山岸蓮弥、加藤泰久、丸山正史、小林華子、三輪元子、檀原賢裕 （以上 29 名　*オンライン３名内数）			
欠　席 **（敬称略）**	川上　忍、百瀬秀樹、堀江三定、伊藤羊子、山口　茂、鷲澤幸一 塚田篤雄、岡　正子、齊藤琉水那、亀山虎太郎　（以上 10 名）		**傍　聴**	10 名
事務局	長野東高校	山本教頭（事務局長）、西澤教諭、柳澤教諭、染谷教諭		
	長野吉田高校戸隠分校	宮下教頭（副事務局長）、丸山教諭		
	長野高校定時制	小出教頭、山本教諭		
	長野商業高校定時制	塩野入教頭、丸山教諭		
	長野西高校通信制	櫻井教頭、檀原教諭		
当日資料	懇話会会議資料(次第、構成員名簿、第 13 回懇話会まとめ、資料Ｐ４～Ｐ11)			

会議事項

（１）第 13 回長野東スーパーフレックス新校再編実施計画懇話会まとめ
（２）今までの検討経過と今後のスケジュール（案）について
（３）再編実施基本計画(案)について
（４）その他

主な内容（ ○意見及び質問等　➡県教委　⇒事務局 ）

【会議事項】

（１）第 13 回長野東ＳＦ新校実施計画懇話会まとめについて

事務局から説明

○意見・要望なし

（２）今までの検討経過と今後のスケジュール（案）について

県教育委員会から、懇話会資料Ｐ４～Ｐ６をもとに説明。

○再編実施基本計画に予算のことは盛り込まれるのか。また、どのタイミングで予算の話になるのか。

➡再編実施基本計画に予算のことは盛り込まれない。施設整備に係る予算については、新校でどんな学びをするのか、その学びを実現するためにはどんな施設や空間が必要なのかを検討していく必要があるため、現段階でいつごろと明言することはできない。

○開校時入学の該当学年やその保護者、学校関係者に対し早い段階で広報をした方が良い。そうすることで意見を聞くこともでき、さらに盛り上がるのではないか。

（３）再編実施基本計画（案）について

県教育委員会から、懇話会資料Ｐ７～Ｐ11 をもとに説明。

募集学級数について、Ⅰ部・Ⅱ部３から４学級、Ⅲ部１学級、通信制課程は 300 人を想定。

○現在、長野西高校通信制には何人通っているのか。また、生徒は週に１日登校しているようだが、入学生が毎年積み上がっていく中で校舎の収容規模を超過する可能性はないか。

⇒現在、長野西高校通信制には 568 人が在籍しており、今年度登録した受講生は 401 人である。また、通信制課程は、科目ごとに定められた必要なスクーリング回数を満たし、レポートと試験によって単位取得となることから、生徒が毎週必ず登校するものではない。

○新校も週１日登校するという設定になるのか。

➡具体的な新校の仕組みについて、今後検討していく。

○通信制課程では、本人が決断して選んだ道だからこそ集中してよい時間を過ごせている。

○新校が様々な生徒に対応できる多様性を持った学校になってほしい。

○学校像が確定していない段階で学級数を考えるのは、少し論理的ではない。ヒアリング等の調査による検討の参考となる数値的な資料等が示される予定はあるか。

➡現段階では予定はないが、必要性が出た場合に調査の実施を検討する。
募集学級数の正式な決定は、開校前年度である。

募集開始について、①既存施設で早期開校する案、②施設整備完了後に開始する案、③一定の整備後に開始しその後も整備を進める折衷案について、いずれの考えが望ましいか。

○新校の開校時期について、施設整備だけを固定的に考えるのではなく、通学方法や人的な要素を含めた学びを支える環境整備も含めて考える必要がある。

○高校の施設整備にどれくらいの時間を要するのか目安を教えてほしい。

➡長野県では、ＮＳＤ（長野県スクールデザイン）プロジェクトによる施設整備を行っている。具体的には、学びと空間の一体的改革として、新校でどのような学びを行うか、そしてその学びを実現するためにはどんな空間が必要かを並行して考えていく方法。そのため自由設計で学校を作っていくイメージとなり、先行している新校では７から８年程度要することを想定している。

○保護者としては、ある程度綺麗な環境で学ばせてあげたいと思う。

○長野東スーパーフレックス新校もＮＳＤプロジェクトにのっとって進めるのか。

➡そのとおり。

○不備のある空間は改修し、良い空間づくりを目指すという覚悟か。

➡使えるものは使っていくというのが施設整備の基本方針。ただし、足りないもの、古くなっているものについての整備は、今後、検討する。

○施設整備だけでなく、「環境」も大切である。戸隠には心が育つ素晴らしい環境がある。戸隠分校の活用を検討してもらいたい。

○生徒の中には市街地ではなく、静かな自然の中で学びたいと願う人もいる。また、地域の文化に触れ、そこから学ぶことも多くある。

○①では新しい学校とは言えず、②では期間的に無理がある。従って③に落ち着くだろうが、フレキシブルスペースは極めて有効であり、生徒が自由に過ごすことができる空間の確保をまず考えてもらいたい。

○①を想定した時、現在の長野東高校で新校を収容することができるのか。収容できない場合は、仮設校舎の使用があるのか。

➡長野東高校の施設を把握していないので、現段階で収容可能かを判断することはできない。仮設校舎については、他の新校では仮設校舎での対応を行っている。

○新校でフレキシブルなカリキュラムを実施すると考えた時、早期に完成形ができるわけではなく、様々なカリキュラムを検討しながらブラッシュアップしていくことが必要になる。そのため施設整備は、修正が可能な形で進めることを望む。

○施設整備の検討に当たっては、未確定な要素も多い。そのため、科目設置や学びの具体化を進める中で、必要な環境整備を行いながら柔軟な対応ができる設備にしてもらいたい。

○目的意識の高い生徒にとっては早期開校への期待がある一方、幅広い生徒に選ばれるためには、施設の新しさは一定程度必要である。また、現時点では新校に関する認知が十分でないため、募集開始時期にかかわらず、早い段階から積極的かつ継続的な広報を行い、多くの意見を取り入れていった方が良い。

○全日制の募集停止と定時制の募集開始のタイミングや統合の方法について検討の必要がある。

➡現段階では、年次で募集開始することを考えている。

【座長まとめ】

・本日の懇話会では、想定する学級数や募集開始年度の考え方について多くのご意見をいただいた。今後は、より具体的な学びのイメージについて議論を深めていくことになるが、生徒の皆さんの声やその背景にある思いを大切にするとともに、幅広い視点からの意見を取り入れながら検討を進めていくことが重要であると感じている。また、施設面のみならず、人的・環境面も含めた学びの在り方や、生徒の自己選択・自己決定を大切にした学校づくりについても、引き続き考えていく必要がある。次回以降も、ぜひ多くのご意見をお寄せいただきたい。

その他

【次回】

日時：令和８年８月から 10 月

会場：長野県庁西庁舎 111 号会議室

内容：設置学科と学びのイメージについて

長野東スーパーフレックス新校（仮称）再編実施基本計画（案）

1　再編統合対象校

長野東高等学校（全日制）、長野吉田高等学校戸隠分校（定時制）、長野高等学校（定時制）
長野商業高等学校（定時制）、長野西高等学校（通信制）

2　募集開始（開校）年度

令和＿＿＿年度

第 14 回懇話会での意見交換を踏まえ現在、県教委で検討中。
＊現時点で長野東高校の施設については調査済。フレックス制導入に伴う授業展開（各課程で１時間に何講座開講するか）を想定し、必要となる教室等の諸室について調査し、募集開始年度について引き続き検討を進める。

3　活用する校地・校舎

長野東高等学校

第８回懇話会においてご了承済み

新校で構想する学びの実現を第一に考え、校地の広さ、生徒の諸活動を支える隣接施設等の有用性の観点から長野東高等学校の校地・校舎を活用する。

4　設置課程・学科及び想定する募集学級数

想定する募集学級数は第 14 回懇話会においてご了承済み

設置課程は第 11 回懇話会においてご了承済み

フレックス制
（定時制課程　●●科　４～５学級程度）
（通信制課程　普 通 科　募集定員 300 名）

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。
※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

5　統合新校の学びのイメージ

第３回懇話会（R5.12.19）以降、継続検討中

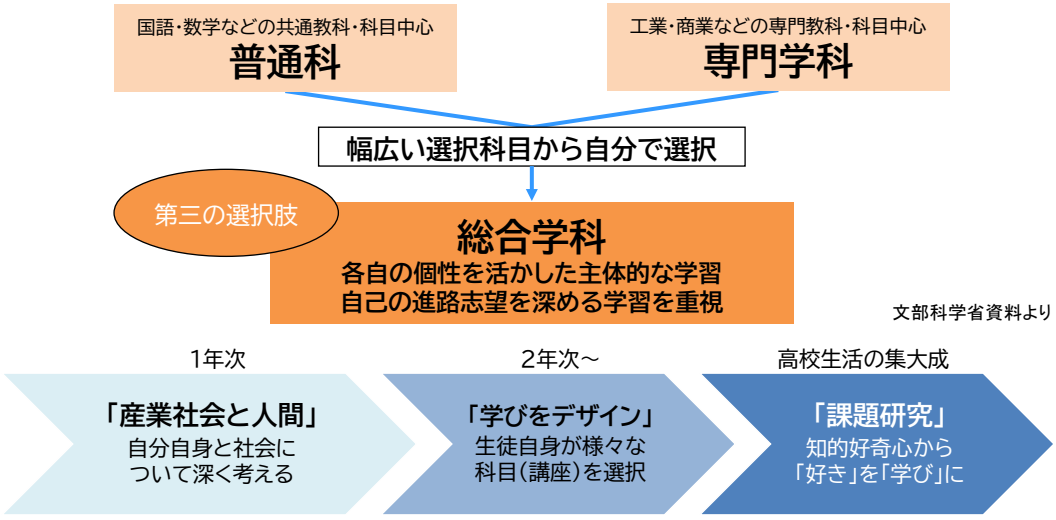
別紙のとおり

6　施設整備

・新校の学びに必要な施設を整備するとともに、既存施設の著しい老朽化と社会や学びの変化を踏まえ質的向上を図っていく。
・施設整備に要する期間は ＿＿＿＿年程度を想定。

長野東ＳＦ新校（仮称）設置学科について①

○「普通科」と「総合学科」のいずれかの設置を検討。



長野東ＳＦ新校（仮称）設置学科について②

	普通科	総合学科
学びの特徴	基礎的・汎用的な学び	**個性を活かした主体的な学び**
教育課程の自由度	中程度 「学校設定科目」を卒業単位として認定できるのは20単位まで	**自由度が高い** **制限なし**
メリット	・科目選択が分かりやすい ・教員配置や時間割編成が容易	**・学習意欲を高めやすい** **・多様なニーズに応えやすい**
デメリット	・学びが画一的になりやすい ・多様な進路への対応が難しい	・科目選択が複雑 ・教員配置や時間割編成が難しい

＜多様な学校設定科目の例＞
○学び直し＆TOKOTON・・・国語、数学、英語、理科、社会　など
○スポーツ・芸術・・・実践スポーツ、実践音楽、映像表現、演劇概論、伝統芸能　など
○情報・探究・・・AI活用基礎、スポーツ文化探究、戸隠探究、博物館探究、6次産業食育　など
○ライフスキル・・・SST基礎、介護福祉基礎、社会福祉基礎、農業実習　など

自分らしく学び、「なりたい自分」へ

～夢を探し、追いかけ、かなえる「スーパーフレックス新校」～

目指す学校像

○一人ひとりにあった学習スタイルと共に高め合う活動を通じ、学びに向かう力を育む学校
○柔軟に学べる仕組みを活かし、自己理解を深め、学校内外でやりたいことを探し、追求できる学校
○地域資源を活かした産学官連携のもと社会とのつながりを深め、自らの選択で行動できる力を伸ばす学校

育成したい生徒像

○夢や目標に向かって主体的、意欲的に学び、挑戦していく生徒
○多様な生き方を尊重し、豊かな人間関係を構築していく生徒
○社会の一員としての責任を果たし、自分らしい未来を考え行動していく生徒

フレキシブルで多様な学び

◆学びを創る　探究学習

課題を見出し解決に向けて考察する。

➤探究をカリキュラムの中心に据えた「学び合う」学び
～対話のある活動を取り入れた授業～

➤地域共学共創コンソーシアムと連携した様々な講座の開設
～豊かな自然環境や人財を活かした実践的・探究的な授業～

➤学校設定教科「キャリアデザイン（仮称）」を入学年次に全員が受講
～人に出会い、自分らしい未来のために必要な学問（学び）を見つけるための授業～

◆学びを深める　高大等連携プログラム

上級学校や研究機関の知見に触れる。

柔軟な学びの仕組みを活かした多彩な単位認定

➤大学や専門学校等で受けた授業を卒業単位として認定

➤様々な研究機関や団体等と連携した校内外での探究的活動を卒業単位として認定

◆学びを広げる　キャリア教育

社会人・職業人としての自立に向けて、地域や産業界と協働する。

地域をフィールドにした実践的な授業の設定
- ボランティア活動
- 長期インターンシップ
- アカデミックインターンシップ研修（大学等の研究や授業体験）
- デュアルシステム（学校での授業と企業での就業体験を並行して行う職業教育）
- アントレプレナーシップ教育プログラム（起業家的行動能力の育成）

➤ 留学、部活動、サークル活動等の自主的な活動を地域と連携し、学校全体で支援

フレキシブルで多様な学びを支えるシステム

学校生活全般に関わるシステム

○無学年制
○2学期制（前期・後期）
○学期ごとに単位認定
○９月卒業・10月入学も可能
○併修可能
○転籍可能

職員＋地域人財を活用したアドバイザーによる支援

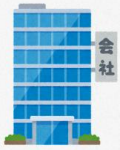
○自主的活動や進路をサポート
・進学、就職　・留学
・探究活動
・部活動、サークル活動
・ボランティア活動　など

○メンタルサポート
・スクールカウンラーの配置
・大学や福祉機関・医療機関と連携

地域共学共創コンソーシアム


大学・専門学校
幼保小中高


医療・福祉機関



地域企業・産業


地域



自治体

自分時間で未来をデザインする

～すべての「ちがい」が、ここでは「自分色」になる～

目指す学校像

➤ 一人ひとりにあった柔軟な学習スタイルをとおして自分に最適な学びを実現できる学校
➤地域との協働をとおして、一人ひとりが社会とのつながりを実感し、生きる力を醸成する学校

目指す自分像

➤ 自らの歩みを肯定し、自分らしい生き方や、社会とつながる姿を語ることのできる自分
➤ 多様な生き方を尊重し、豊かな人間関係を築くことができる自分

「ライフ&キャリアデザイン（仮称）」を通して自己理解を深め自分らしい学びをデザインする

フレキシブルで多様な学び

◆学びを**創る** **探究型学習**	➤探究的な学びを軸とした対話と協働で創る学び 自ら問いを立て答えを探す経験を通じて、未知の課題に挑戦する
◆学びを**深める** **高大等連携プログラム**	➤大学や専門学校等で受けた授業や様々な研究機関や団体等と連携した学校内外での取り組みなどを卒業単位として認定
◆学びを**広げる** **キャリア学習**	➤地域を活動の場とした実践的な学び 多様な選択科目　例）伝統芸能・観光プロデュース・戸隠探究　他

●自分らしい学びを実現できる柔軟なシステム●

➤ **「フレックス制（定時制・通信制）の機能」**
・一人ひとりの生活や学習スタイルに応じて、在籍年数や学びの時間軸をデザインでき、併修や転籍（所属変更）を活用しながら、自分に合った学びを実現できる。

フレックス制

定時制の課程**「総合学科」**
・選べる学びの時間帯
・幅広い分野の授業を選択可能

転籍・併修

通信制課程の**「普通科」**
・生活スタイルに合わせて登校が可能
・自宅でも、どこでも学びが可能

●安心して自分らしく学べる環境●

➤**「メンタルサポートの充実」（心や身体に関する不安や悩みなどの相談）**
・スクールカウンセラーの常駐、カームダウンスペース（心の休憩室）の設置
・スクールソーシャルワーカーによる医療・福祉関係機関およびNPO法人等との支援連携

●地域共学共創コンソーシアムとの連携●

➤**日常的な学習だけでなく、部活動・留学・ボランティア活動等を地域と連携し、学校全体で支援**
・学校内外での学びたいことや得意なこと（スポーツや芸術等）にトコトン取り組めます


各種学校


医療・福祉機関


地域



地域企業・産業


自治体

長野東ＳＦ新校（仮称）フレックス制の学びの仕組み（案）

※時間帯については現時点のイメージです。

フレックス制

定時制の課程

時間帯の目安	8:30～ 午前の時間帯	13:00～ 午後の時間帯	17:00～ 夜間の時間帯 ～20:50
１年次	A / B	A / D	C
２年次以降	自分のライフスタイルに合わせてどの時間帯の授業も選択することが可能		

※１年次は午前・午後・夜間のいずれかの時間帯を中心に授業を選択。２年次以降は標記のとおり。
※チューター（個別の指導者）による履修に係る丁寧な支援・指導の充実。
※卒業に必要な「単位数」・「３年以上在籍」の２つの条件をクリアした段階で卒業となるので、３年でもそれ以上でも卒業可能。
※３年間で卒業の場合、１日６時間の授業（上記A～Dまたは通信制の授業いずれかを併修）を受講。４年間で卒業の場合、１日４時間の授業を受講。

併修による履修・転籍による所属変更が可能

通信制の課程

～通信制の学習システム～
□レポート＝各教科・科目の課題
□スクーリング＝学校に登校し、授業形式の面接指導
□テスト＝学習の成果を判定するために実施

決められた数のレポートに合格
決められた数のスクーリングに参加 ➡ 単位修得
テストに合格

※チューター（個別の指導者）による履修に係る丁寧な支援・指導の充実。
※卒業に必要な「単位数」・「特別活動（行事等）への参加時間」・「３年以上在籍」の３つの条件をクリアした段階で卒業となるので、３年でもそれ以上でも卒業可能。

「長野東ＳＦ新校（仮称）再編実施基本計画」策定スケジュール（予定）

令和８年度

懇話会（4回程度）

○再編実施基本計画の策定に向けた意見交換

6月　第14回懇話会　募集開始年度・募集学級数について

10月　第15回懇話会　設置学科について
学びのイメージについて

11～12月 第16回懇話会　再編実施基本計画(案)について

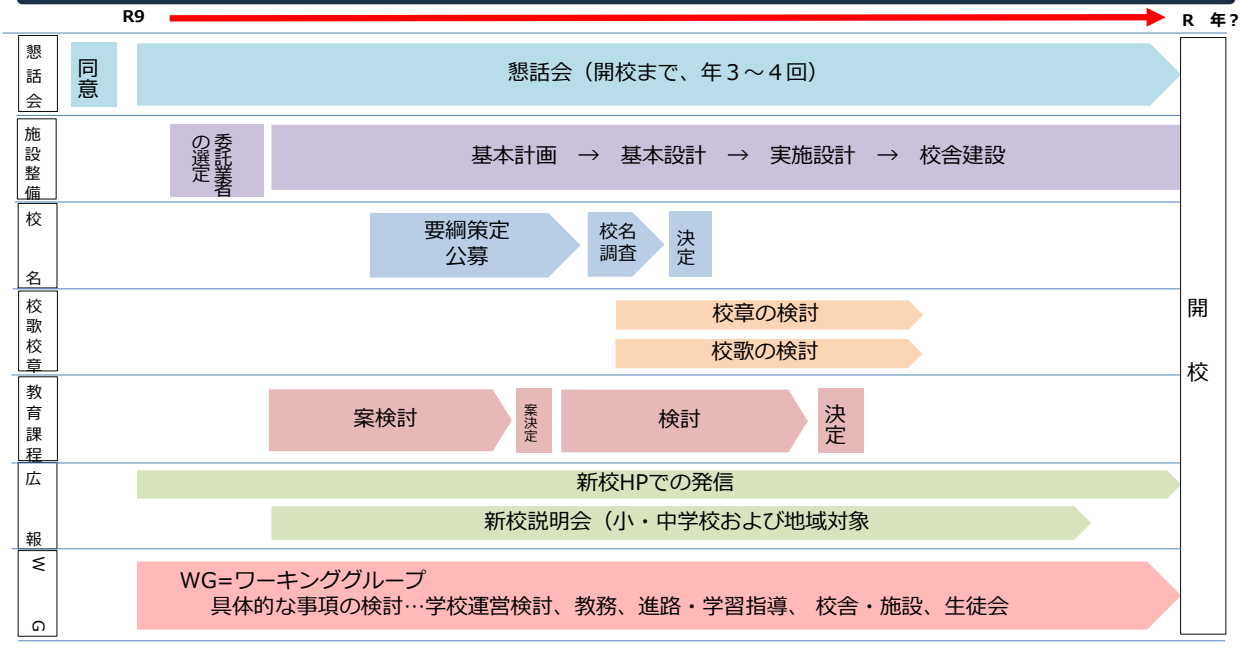
第17回懇話会　今後のスケジュールについて

教育委員会
再編実施基本計画の決定

県議会
統合事件案の同意

1

「長野東ＳＦ新校（仮称）」開校までのロードマップ（イメージ）



2